ミズノ テクニクス株式会社
環境創出活動に関する行動計画の達成状況報告（2022 年度）

2023 年 5 月 29 日
岐阜県養老郡養老町高田 307-5
ミズノ テクニクス株式会社
社長　能勢 孝行

岐阜県養老郡養老町と岐阜県西濃振興局及び当社が、2008 年 3 月 25 日に締結した「環境創出協定」に関する 2022 年度（令和 4 年度）の当事業所活動内容について、ご報告いたします。

1.　環境創出協定第 4 条に基づく各管理項目の達成状況

Table1　環境創出協定第 4 条に基づく各管理項目の達成状況

注：法令が適用されない項目等に関しては「－」を記入する。		法令に基づく規制基準	維持管理目標値	将来目標値（目標年:令和4年）	2022年度（令和4年度）実績
水質汚濁（公共下水道へ排水）	水素イオン濃度（pH）	5～9未満	6.0～8.0	6.3～7.7未満	7.4
	生物化学的酸素要求量（BOD）	300 mg/L未満	100 mg/L未満	60 mg/L未満	31 mg/L
	浮遊物質量（SS）	300 mg/L未満	100 mg/L未満	30 mg/L未満	2 mg/L
	n-ヘキサン抽出物質含有量（動植物油脂類）	30 mg/L未満	20 mg/L未満	15 mg/L未満	1 mg/L未満
騒 音	騒音の大きさ（就業時刻 8:20～17:00）	朝 60 dB以下	－	－	－
		昼 65 dB以下	65 dB以下	62 dB以下	夏季 63.0 dB 冬季 60.9 dB
		夕 60 dB以下	－	－	－
		夜 50 dB以下	－	－	－
産業廃棄物	ゼロエミッション活動（リサイクル率）	ゼロエミッション活動を継続実施	98%以上	99%以上	99%以上
	プラスチック廃棄物等	プラ廃棄物等削減活動を継続実施	70 t以下	50 t未満	52.7 t

2022 年度の達成状況は、水質汚濁（公共下水道へ排水）の各項目については、維持管理目標値及び将来目標値を満たしており、当初目標は達成できました。しかし、騒音と産業廃棄物においては、維持管理目標は達成できたものの将来目標について未達成となりました。

個々の未達成内容については以下となります
騒音については、夏季 63.0dB・冬季 60.9dB となり将来目標値に対し年間の最大値で 1dB 超過する結果となりました。

今後は、年間通して将来目標値を達成するべく対策を講じて参ります

ゼロエミッション活動については、将来目標値に対し、プラスチック廃棄物等が 5.6%増と大幅に上回る結果となりました。これは新型コロナウイルス感染症の収束により製品受注が回復基調となり、塗料、溶剤等の廃液や包装資材等の廃棄が増加したことによるものです。

今後は更なる歩留まりの改善や包装資材、およびカーボン素材のマテリアルリサイクルを一層推進し、産業廃棄物の発生を抑制して参ります。

2.　温室効果ガス排出量削減について

Table2　2018 年度以降の温室効果ガス排出量の推移

	2018年度（H30年度）	2019年度（H31年度）	2020年度（R2年度）	2021年度（R3年度）	2022年度（R4年度）
温室効果ガス排出量〔t-CO2eq〕	1,295	1,296	1,208	1,306	1,157
対2018年度(H30年度)〔%〕	−	100.1	93.3	100.8	89.3

2022 年度の達成状況は、2021 年度（令和 3 年度）比で 11.4%の削減、また 2018 年度（平成 30 年度）比で 10.7%の削減ができました。
当社グループは気候変動の緩和に向けた取り組みを加速させるため、2020 年（令和 2 年）8 月に長期環境目標を見直し、2050 年までにカーボンニュートラルの実現を目指すことを定めました。
2030 年の Scope1、2 においては 2018 年度比で 30%の削減、Scope3 のカテゴリー1 とカテゴリー12 においては 2018 年度比で 50%削減（製品当たり）を目標として設定しています。

Fig.1　当社グループの環境目標

2023 年度は、SBTi（Science Based Targets イニシアティブ）参加登録に向けミズノグループ全体で活動してまいります。

3.　エネルギー使用量の削減について

長期環境目標を達成するため、2023 年 1 月、同工場で最大の棟であるゴルフ製造棟に太陽光パネルを設置しました。年間約 40 万 kW を発電し、ゴルフクラブ、野球バット、コンポジット事業等製品の製造工程の電力として利用しています。また、自然災害発生時には非常用電源設備としても機能し、近隣の皆様が一時的にご利用することも可能であり、地域社会への貢献が期待されます。
製造棟および管理棟、製品倉庫の照明につきましては、LED 化を計画的に進め、エネルギー使用の削減に努めています。また、社用車はガソリン車からハイブリッド車の低燃費車に順次切り替えているほか、一部に電気自動車を導入して環境への効果を確認しています。社用車には「テレマティクス」を使用し、車両の運行状況を見える化することで、安全運転への意識付けだけではなく、燃費の改善や温室効果ガス排出量の削減などに役立てています。

Fig.2　ゴルフ製造棟（左）とゴルフ製造棟に設置した太陽光パネル

4.　コミュニケーション

4-1. 工場周辺の美化清掃活動

毎月第 1 水曜日に 30 分程度と短時間ですが、地域の環境整備及び従業員への環境意識の向上を目的に、工場周辺の美化清掃活動を継続的に実施しています。

これは地域環境の美化に役立つとともに、清掃活動を通じて地域の一員であることを再認識し、近隣の皆様との相互コミュニケーションの場にもなっています。2022 年度は金属ごみやプラスチックごみ、腐朽木等を回収しました。

Fig.3　工場周辺の美化清掃活動の様子

4-2. 工場見学・メディア取材受入れ

新型コロナウイルス感染症により、受入れ件数は例年に比べて大きく減少しましたが、2022 年度におきましては 3 件 55 名様の工場見学を実施し、大変ご好評をいただきました。

また世界的なイベントやプロスポーツ界でご活躍された選手が使用する、専用モデル製造工程のメディア取材の受入れを実施しました。

Fig.4　バットクラフトマンによる選手専用モデル製造の様子